

予 算 要 求 資 料

令和3年度9月補正予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：森林整備費

事業名 森林病虫害等駆除事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林整備課 整備係 電話番号：058-272-1111 (内 3195)

E-mail：c11515@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 1,927千円 (現計予算額：0千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	1,927	1,283	0	0	0	0	0	0	644
決定額	1,927	1,283	0	0	0	0	0	0	644

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

「松くい虫被害」は、平成14年度以降減少傾向にあるが、平成30年度は329m³、令和元年度は612m³、令和2年度458m³と増減を繰り返しており、予断を許さない状況である。

恵那市では、「大船神社参道の松並木」(岐阜県文化財指定)において、病虫害防除用の薬剤樹幹注入を定期的に行っているところであるが、前回注入から7年を経過し薬剤の効用が切れることから、早急に樹幹注入を行う必要がある。

(2) 事業内容

松くい虫及びカシノナガクイムシ被害から、松林やナラ類(ミズナラ、コナラ等)の枯損被害を抑制するため、市町村が実施する各種防除対策を支援する。

[予防]

樹幹注入：殺菌剤等を幹に注入し、菌の繁殖を阻止する

(3) 県負担・補助率の考え方

国 1/2(森林病虫害等防除事業費補助金)、県 1/4、市町村 1/4

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	1,927	【松くい虫防除】 恵那市 薬剤樹幹注入
合計	1,927	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「第三期岐阜県森林づくり基本計画」の1 健全で豊かな森林づくりの推進

(2) 国・他県の状況

全国で同事業を実施している。

(3) 後年度の財政負担

継続的な実施が必要

(4) 事業主体及びその妥当性

市町村 森林林業基本法（昭和39年7月9日 法律第161号）第2条、第6条、第13条より、地方公共団体は森林病虫害等の駆除及びその蔓延の防止その他必要な施策を講ずる義務を有するため、妥当である。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

松くい虫対策対象松林における松くい虫及びカシノナガキクイムシの被害を、今後も継続して減少傾向に保つ。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
		(H30)	(R1)	(前年度末時点)		
対策対象森林における被害材積(m ³) 松くい虫	(H)	329 (H30)	612 (R1)	458 (R2)	300 (R3)	-%
対策対象森林における被害材積(m ³) カシナガキクイムシ	(H)	43 (H30)	12 (R1)	13 (R2)	50 (R3)	%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

実績なし（市町村からの要望無し）

（前年度の成果）

実績なし（市町村からの要望無し）

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	被害材積は年度によって増減を繰り返しており、今後、新たな被害が確認される可能性は高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	これまでの取組等により、新たな被害の発生は減少傾向にある。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	特に保全すべき森林について、被害木の立木くん蒸、伐倒くん蒸等による「駆除」や殺菌剤の樹幹注入等による「予防」を重点的に実施することで、効果的かつ効率的に防除を行っている。

(今後の課題)

被害材積は年度によって増減を繰り返しており、今後被害材積がさらに増加する可能性は高い。

(次年度の方向性)

今後も、気象条件等の生育環境の変化による被害増加が予測されるため、特に保全すべき森林について、被害木の立木くん蒸、伐倒くん蒸等による「駆除」や殺菌剤の樹幹注入等による「予防」を実施していく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	